

神社名：石神井台氷川神社      しゃくじいだいひかわじんじゃ

住 所：練馬区石神井台1-28-24

調査月日：2020年1月4日

調査参加者：粟田、菅野、木村、梅田、宮崎、小幡、浅見、竹内、小林、木村（怜）

写 真：



由来など： 本社は石神井郷の総鎮守にして、谷原、田中、上石神井、関、下石神井の五ヵ村より篤い崇敬をうつけできたのみならず、今日なお一般に「石神井の氷川さま」と尊称され、その御神徳をますます発揚している。本社が石神井郷の総鎮守であったことは、『新編武蔵国風土記稿』『江戸名所図会』等の諸誌に明記されているところであるが、現存の御手洗鉢に、「石神井郷鎮守社」と銘刻がのこされているのはそのたしかな証拠であろう。社伝によれば、本社は応永年間（一三五四―一四二八）豊嶋氏が、大官の武蔵国一ノ宮の氷川神社の御分霊を石神井城内に奉斎したのにはじまるという。しかして、文明九年（一四七七）四月十八日、石神井城が太田道灌によって攻略され廃城となるや、本社は里人の鎮守神と仰がれ、今日におよんでいるのである。

御鎮座以来、諸人から厚く尊信されてきたが、ことに豊嶋一族の待遇は格別であったようで、現に本殿の左右にたっている石燈籠一対のごときは、当城歿落後とはいえ、豊嶋氏の子孫、泰盈・泰音によって奉納せられたもので、豊嶋氏が本社崇敬の篤かったことを物語っている。

本社は本殿・幣殿・拝殿・神楽殿・神饌所・水舎・社務所・玉垣等が完備されており、社殿は文政年間（一八一八―一三〇）にたてられたものと推測される。

（「東京都神社名鑑」により）

祭神など：須佐之男命、稲田姫命、大己貴命

空間位置・面積等・植生など：広い境内やその周辺はかつての武蔵野の雑木林を彷彿とさせるところで社叢林としては十分な佇まいである。社務所を新築中なので樹木の伐採があったらしいがどの程度かは現時点ではわからない。周辺地域からの信仰も篤いようなので心配は無いと思われる。

地図上の位置：



平面図：調査はしていない